

令和6年2月

医療関係者各位

株式会社陽進堂

「使用上の注意」改訂のお知らせ

活性型ビタミンD₃製剤
カルシトリオールカプセル 0.25 μg 「YD」
カルシトリオールカプセル 0.5 μg 「YD」
 (カルシトリオールカプセル)

今般、自主改訂により下記の通り使用上の注意事項を変更致しましたので、お知らせ申し上げます。
(下線部分が変更箇所です。)

ご使用に際しましては、下記改訂内容をご参照賜りますようお願い申し上げます。

記

〈改訂内容〉

改訂後			改訂前 (.....部：削除)		
10. 相互作用			10. 相互作用		
10.2 併用注意 (併用に注意すること)			10.2 併用注意 (併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ビタミンD及びその誘導体 アルファカルシドール等 [8.1、8.2 参照]	高カルシウム血症があらわれるおそれがある。	作用が相互に増強される。	ビタミンD及びその誘導体 アルファカルシドール等 [8.1、8.2 参照]	高カルシウム血症があらわれるおそれがある。	作用が相互に増強される。
PTH製剤 テリパラチド等 PTHrP製剤 アバロパラチド酢酸塩 [8.1、8.2 参照]		相加作用による。	PTH製剤 テリパラチド [8.1、8.2 参照]		相加作用による。
カルシウム製剤 乳酸カルシウム水和物 炭酸カルシウム等 [8.1、8.2 参照]		本剤は腸管でのカルシウムの吸収を促進させる。	カルシウム製剤 乳酸カルシウム水和物 炭酸カルシウム等 [8.1、8.2 参照]		本剤は腸管でのカルシウムの吸収を促進させる。
マグネシウムを含有する製剤 酸化マグネシウム 炭酸マグネシウム等 [9.2.1 参照]	高マグネシウム血症があらわれるおそれがある。	他のビタミンD誘導体と同様に腸管でのマグネシウムの吸収を促進させると考えられる。	マグネシウム含有製剤 酸化マグネシウム 炭酸マグネシウム等 [9.2.1 参照]	高マグネシウム血症があらわれるおそれがある。	本剤は腸管でのマグネシウムの吸収を促進させる。
	ミルク・アルカリ症候群 (高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等) があらわれるおそれがある。	血中マグネシウムの増加により代謝性アルカローシスが持続するため、尿細管でのカルシウム再吸収が増加する。	ジギタリス [8.1、8.2 参照]		省略
ジギタリス [8.1、8.2 参照]		変更なし			

—医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読み下さい。—

〈改訂理由〉

・「併用注意」への追記

本剤と PTHrP 製剤との併用及び本剤とマグネシウム含有製剤との併用に関して、先発製剤において新たに記載が行われたため、同様に改訂して注意喚起することといたしました。

- DSU No.324(2024年3月発行)掲載予定
- 最新の電子添文につきましては、以下ホームページをご参照ください。
陽進堂ホームページの医療関係者様向けサイト(<https://www.yoshindo.co.jp/>)
医薬品医療機器総合機構のホームページ(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)
- 専用アプリ「添文ナビ」を用いてGS1バーコードを読み取ることで、電子添文を確認頂くこともできます。

カルシトリオールカプセル「YD」のGS1バーコード



お問い合わせは、担当 MR 又は弊社医薬営業本部までご連絡ください。
株陽進堂 医薬営業本部 ☎ 0120-647-734

以上